

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 19年2月－春節の影響で落ち込んだ1月から持ち直したが、アジア向けの輸出は低迷が継続

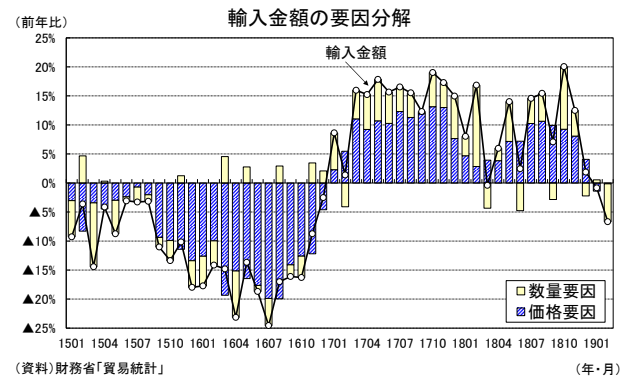
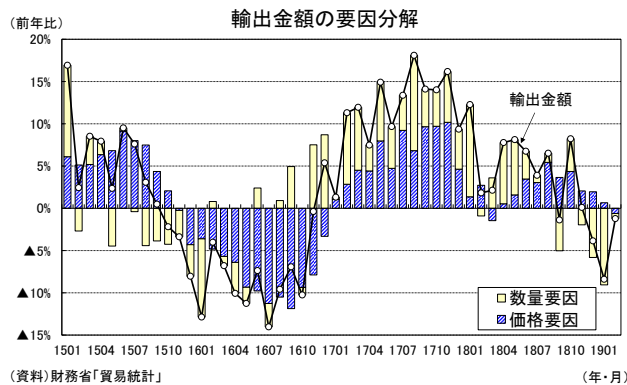
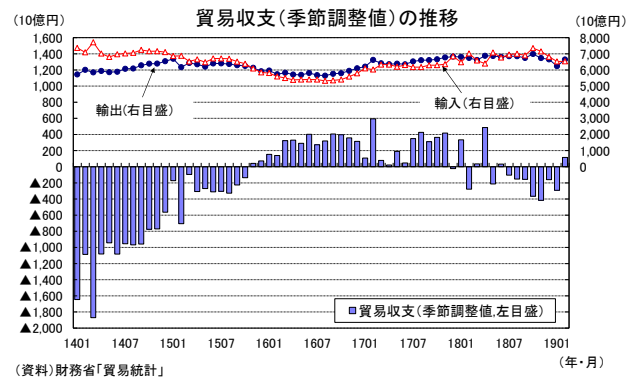
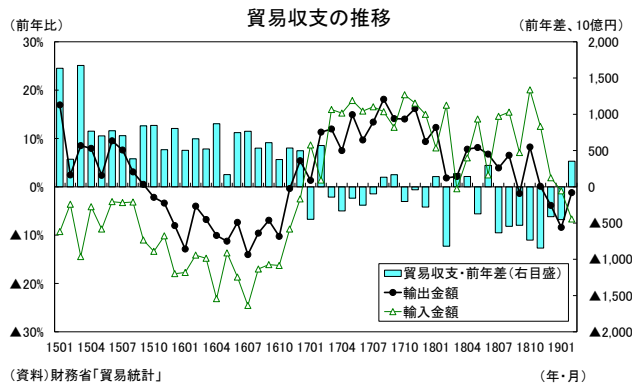
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易収支(季節調整値)は8ヵ月ぶりの黒字

財務省が3月18日に公表した貿易統計によると、19年2月の貿易収支は3,390億円と5ヵ月ぶりの黒字となり、ほぼ事前の市場予想（QUICK集計：3,102億円、当社予想は3,650億円）通りの結果となった。輸入が前年比▲6.7%（1月：同▲0.8%）と減少幅が拡大する一方、輸出が前年比▲1.2%（1月：同▲8.4%）と減少幅が縮小したため、貿易収支は前年に比べ3,529億円の改善となった。

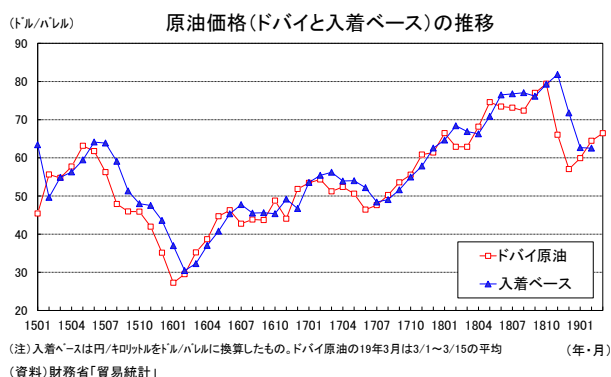
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲0.6%（1月：同▲9.0%）、輸出価格が前年比▲0.6%（1月：同0.7%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲6.5%（1月：同0.5%）、輸入価格が前年比▲0.1%（1月：同▲1.4%）であった。



季節調整値の貿易収支は1,161億円（1月：▲2,922億円）と8ヵ月ぶりの黒字となった。輸入

が前月比 0.1%のほぼ横ばいとなる一方、輸出が前月比 6.7%の高い伸びとなったことが貿易収支の改善につながった。ただし、2月の貿易黒字は、中華圏の春節の影響で1月が大幅な赤字となった反動による部分も大きい。1、2月の平均では貿易赤字となっており、基調として貿易収支が黒字に転換したとはいえない。

2月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=62.5 ドル（当研究所による試算値）と、1月の62.7ドルからほぼ横ばいとなったが、足もとの原油価格（ドバイ）は60ドル台後半まで持ち直しているため、通関ベースの原油価格は3月以降上昇することが見込まれる。貿易収支（季節調整値）は再び赤字となる可能性が高いだろう。



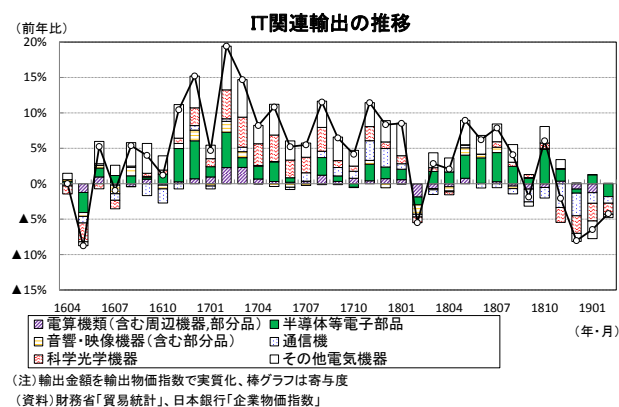
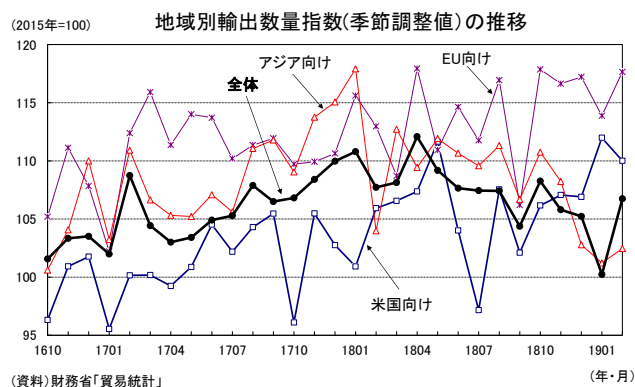
## 2. アジア向けの輸出低迷が続く

19年2月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比4.1%（1月：同10.2%）、EU向けが前年比4.7%（1月：同▲1.5%）、アジア向けが前年比▲1.3%（1月：同▲14.4%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲1.8%（1月：同4.7%）、EU向けが前月比3.3%（1月：同▲2.8%）、アジア向けが前月比1.2%（1月：同▲1.5%）、全体では前月比6.5%（1月：同▲4.8%）となった。19年1、2月の平均を18年10-12月期と比べると、米国向けは4.0%高いが、EU向けが▲1.3%、アジア向けが▲5.1%、全体では▲2.8%低くなっている。

2月の輸出数量は中華圏の春節の影響などで大きく落ち込んだ1月からリバウンドしたが、アジア向けの戻りは弱かった。アジア向けの輸出数量指数（季節調整値）は18年1-3月期から4四半期連続で低下した後、19年1-3月期も前期比マイナスとなることが確実である。IT関連の落ち込みを中心に、アジア向けの輸出は基調として減少している。

また、日本の輸出数量に対して先行性のある OECD 景気先行指数（OECD+非加盟主要6カ国）は18年入り後低下傾向が続き足もとでも下げ止まっていない。すでに欧州、新興国経済の減速は明確となっているが、好調が続いていた米国経済もここに来て拡大ペースが鈍化している。外部環境が厳しさを増す中、輸出は当面低調な推移が続くことが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。